



発行所
日刊自動車新聞社
 東京都港区芝大門1丁目10番11号
 購読料 1カ月5343円+税
 電話 東京(03)5777-2351代表
 ©日刊自動車新聞社2020

4月6日
 (月曜日)

交通遺児育英会

月額2万円を給付

交通遺児育英会(賞谷定彦会長、東京都千代田区)は、1960年に設立、昨年5月に50周年を迎えた。60年代の高度経済成長期以降急増した交通事故が原因で死亡した方や著しい後遺障がいのある方の子女のうち、経済的な理由で修学が困難な方を対象に学費を貸与することで教育の機会均等を図り、社会有用の人材を育成することを目的とする。79年にはこの誰かが遺児の誰かを奨学金で支援する「あしながおじさん奨学金制度」を開始、これは大きな反響を呼び、全国的な支援の拡大と認知度の向上につながり、経営の安定を支援した。

奨学金の一部給付スタート

これまで、基本である奨学金貸与に加え、自宅外通学者への家賃補助、高校奨学生への上級学校進学受験費用補助、自動車運転免許取得費用補助などの給付策の拡大や、経済状況に応じた返済期間の猶予あるいは免除など、修学支援を拡大してきた。さらにこの4月1日より新たな修学支援策として、奨学

さらに返還負担軽減

幅広い修学支援

金の一部給付を開始した。対象を20年当時の大学奨学金の非課税者に加えることとした。この一連の変更により、奨学生に返還負担の軽減が図られることになる。



学生塾心塾(いんこく)東京案

設立以来、交通遺児の高校生への奨学金貸与を始めた。対象範囲を大学、大学院、専修・各種学校まで拡大し、これまでの貸与総計は、交通遺児約5万7000人に無利子貸与額約55億円となる(20年3月現在)。



「あしながおじさんVD」では交通遺児家庭の苦勞とさまざまな修学支援策を紹介

指導育成にも注力

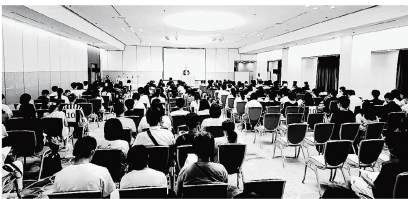
これらの学費支援のみでなく、奨学生の指導育成にも力を入れており、成績や生活状況の把握に加え、相談窓口を設け奨学生たちの生活や進学の悩みに応じる体制を敷いている。さらに、高校奨学生の海外語学研修プログラムを毎年開催。費用は全額同会が負担し、英会話能力の向上と異文化体験を目的に、毎回約30人が夏休みのみ3週間米国でホームステイしながら語学教室に通う。同プログラムは奨学生たちの精神的な成長の場となる。

しても高く評価される。

また、奨学生・保護者同士の交流や情報交換の場として「高校奨学生と保護者のつどい」を年1回開催、設立50周年となる昨年は83家族188名と過去最多に近い参加率となり、同じ悩みを持つ者同士が交流し将来を考えるきっかけづくりの場となった。もう一つ重要な事業として「学生寮(いんこく)」の運営がある。まず、同会設立9年目に東京日野市豊田に開設し、さらに保護者からの要望に応える形で05年から関西エリアにも開設、格安な寮費で学生生活を支える。

つづいた修学支援活動に加え、地方公共団体や民間企業などが主催する交通安全啓発活動にも積極的に参加し、その協賛活動を通じて交通事故撲滅を目指すなどの取り組みも行っている。

同会は「設立50周年を迎えられたのは、連続と続いてきた全国のあしながおじさんのご支援のおかげ。今後現況に満足することなく、世の変化を見極めつつ、さらなる前進に向け努力を続ける」(石橋健一理事長)として、今後も交通遺児への修学支援の充実を第一に、支援者の期待に応える事業の充実力を尽くしていく。へ。



「奨学生と保護者のつどい」は奨学生・保護者の語らいの場となっている。

日刊自動車新聞社が記事利用を許諾しています。

掲載日 2020年4月6日 日刊自動車新聞 11面 ©日刊自動車新聞社 無断複製転載を禁じます。